

新書紹介

社会調査ハンドブック〔第三版〕

安田三郎・原純輔著

有斐閣双書 A5判 三五二頁 二四〇〇円

今回は、新書の紹介ではなく、特集に関係した参考文献を紹介する。昭和三十五年の初版以後、現在第三版がだされている「社会調査ハンドブック」を取り上げた。

第三版のまえがきに「本書は、文字通りの社会調査のハンドブックと、社会調査法の教科書という二通りの用いられ方をしてきた」が、「ハンドブックの色彩を強めるといふ方針をとった」と述べているように、実際に調査を行う際に役立つように工夫されている。自治体職員である私たちにとっては、実に有り難い調査の手引書である。

「Ⅰ社会調査概説」に調査の基本が述べられている。先ず「社会調査とは、一定の社会または社会集団における社会現象を、主として現地調査によって、

まれ、このうち大事な点が説明されている。

①調査対象の範囲の決定とは、地域社会の調査では調査地の選定、標本抽出調査では母集団の決定に相当する。②現地調査法の種類は、調査票法、観察法、自由面接法、テスト法の区別があり、調査票法はさらに、個別面接調査法、配票調査法、集合調査法、郵送調査法、電話調査に別れる。③標本抽出の設計では、全数調査や標本（抽出）調査（サムプリング調査）が行われる。標本抽出調査は、無作為抽出法がふつう使われ、その中に系統抽出法、層化抽出法、副次抽出法等がある。標本抽出は別に「Ⅵ標本抽出」の項を設けて詳しく説明されている。⑦調査票の作成に当たっては、調査項目の選択、用語について、構文について、項目の配置、回答形式、調査票の体裁、プリントとときめ細かい。この調査票の作成についても、「Ⅴ質問文例」において、質問文のチェック、ポイントに続いて、九つの分野別に九百二例が紹介されている。

調査結果の整理

記録を清書・分類・総合することや、調査票を集計する過程が調査結果の整理になる。

集計は、エディティング、コウディング、集計製票の三過程から成る。エディティングとは、調査票の内容を点検すること。コウディングとは、調査項目ごとに回答を分類し符号に直すこと、集計製票とは、調査票を集計して統計票の形にまとめあげることである。集計製票作業は、手集計と機械集計があるが、手集計には、五通りの方法がある。機械集計には、PCS（パンチカードシステム）法とEDPS法があるが、現在は、電子計算機を利用したデータ処理システムEDPS法が主流になっていて、それぞれ単集計、クロス集計が行われる。

その他、本書では「Ⅱ調査單位」「Ⅲ基礎的調査項目」「Ⅳ職業および職業分類」「Ⅶ尺度作成法」「Ⅷ計算法」「Ⅷ数表」について説明があり、さらに「Ⅹ用語解説および索引」が大

変役に立つ。

横浜市の調査では

これら説明されたことを横浜市の調査「市民意識調査」に即してみている。「市民意識調査」は、二十年間にわたり実施しているが、調査対象の範囲は横浜市内に居住する満二十歳以上の男女個人であり、現地調査は調査票法による個別面接調査法（個別訪問面接聴取法）に当た

る。抽出は、住民基本台帳をフレームとする層化二段無作為抽出方法により、三千標本を対象としている。

また「市民意識調査」は、経年項目と、特集項目からなっている。そこで、参考文献としては、各種統計書、国や他の自治体、調査・研究機関等の調査報告書、世論調査年鑑をはじめ特集テーマに関する書籍を必読文献にしている。

なお著者の原純輔教授は、本調査季報にご執筆いただいているので、お読みいただきたい。

△編集部▽